

僕の妹は今四歳だ。二歳の時、一万人に一人と言う珍しい病気にかかっていることが分かった。大学病院で何度も検査して、入院治療をして、今は毎日の服薬と月一回の点滴治療を続けている。妹が受けた治療の領収書を見てみると、診察や検査、点滴は一回数万円で、さらに服薬している薬代も記載されていた。思ったよりとても高額で驚いた。もし、これらを全額自分で負担しなければならない制度であれば、こんな金額を何年間も払い続けることができたろうか。

しかし、妹は、子ども医療費助成制度があるおかげで通院は月六百円の負担で済んでいる。では、かかっている治療費の残りは誰が負担してくれているのだろうか。きっと、日本中の納税している人たちだ。こういった医療費に税金が使われていることは知識としては学んでいたが、僕は税金のおかげで妹が小さな負担額で治療できていることを初めて実感した。また、妹だけではない。僕も弟も、小さい頃はたくさんの風邪や病気にかかって病院で治療を受け、その度に税金で負担を軽くしてもらっていたのだ。

そう思って周りのものを見てみると、税金で負担しているものばかりだ。僕たちが幼いころ遊んでいた公園の整備、使っている教科書の無償化、学校までの通学路が舗装されてきれいに保たれているのも、税金が使われているからできることなのだ。こういった制度がなければ、僕たちの生活は成り立たないだろう。

外国には日本より税率が高い国もあれば、低い国もある。税金の安い国は、個人が払う税額は少ないが、全額個人の負担となっているサービスも多く、お金の余裕のある人でなければ受けられないサービスも多い。一方、税金の高い国では、質の良いサービスが低額で受けられる代わりに、個人が払う税額は高くなっている。どちらが良いのかは簡単に決められないが、僕は妹の病気のこと、困ったときに助けてくれる制度があって本当に良かったと思っている。

税金にはたくさんの種類があるが、僕が払っている税金は消費税くらいだ。商品を買う時には、税金の分だけ金額が上乗せになるので損をしているような気分になってしまっていたが、僕が払っている税金以上に僕は税金で助けられているのだとわかった。僕ができることは、今、自分が負担することができる消費税を払うこと、そして大人になって働くようになったら、他の税金もきちんと納めることだと思う。僕が払った税金が少しでも誰かの役に立つのなら払いたいし、大人になって納めた税金で、妹のように病気を治そうとがんばっている人が助かってくれたら嬉しい。僕は税金を納めることへの意識を見直したいと思った。